



# 加古川市立神吉中学校 学校だより 校長室より 第45号

教訓を生かし、次の災害に備えるために。。。。

## 避難訓練

1月20日（火）に、地震を想定した避難訓練を行いました。災害に備えるためには、避難訓練の実施等により防災意識を高めておくことが大切です。震災による被害を軽減するためには、自分自身が災害から逃れるための知識（自助）、他人を助けるための知識（共助）が必要であると言われています。

概ね100～150年の間隔で繰り返し発生してきた南海トラフ地震は、前回の発生から今年で80年となり、次の震災がいつ発生するのかが予測できない状況となっています。生徒のみなさんは、この避難訓練を機に、これまで以上に防災意識を高め、いざという時のために備えてほしいと思います。

## 1.17 のつどい

阪神・淡路大震災から31年が経ちました。当時、たくさんの家屋が倒壊したり火災が発生したりするなど壊滅的な被害を受けましたが、その後の救助活動では、多くの方々が、住民同士の助け合いにより救出されたという記録が残っています。震災の教訓を生かし、次の災害に備えるための「記憶の継承」が求められており、今年も各地で追悼行事が行われました。



神吉中学校でも、避難訓練後には「1.17 のつどい」を実施し、震災でお亡くなりになられた方々を追悼するとともに、震災の教訓や備えについて考える機会としました。はじめに、生徒会執行部から、1月10日に参加した「1.17 希望の灯り分灯式」の報告を行い、生徒会長が1.17宣言をしました。最後に、全校生で「しあわせ運べるように」を合唱しました。この詞は、神戸で被災された小学校の先生が、変わり果てた神戸の姿を目の当たりにして、こみあげてきた想いを書かれたものです。



阪神・淡路大震災に立ち向かう中で、兵庫県の人たちが培ってきた絆、支え合う心、優しさ、思いやりを、しっかりと受け継いでいきましょう。